

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：阿知ケ谷・東光寺自治会

開催場所：阿知ケ谷公会堂

開催日時：平成 28 年 8 月 3 日（水）19 時 00 分～20 時 46 分

参加者：自治会側【地域住民の方 16 人】

市側【染谷市長、牛尾理事、今村こども未来部長、大村都市基盤部長、森田病院事務部長、畑教育部長、三浦秘書課長、秋山協働推進課長、
駒形戦略推進課係長、田原六合公民館長】

内 容

① 園田自治会長あいさつ

・前は 2 年前の春だったと思うが、20 人程度の皆さんに集っていただいて市長と語る会を実施した。当時は、バイパスの交通量が増え、阿知ケ谷東光寺線の路面の痛みが激しいことに対する要望や、バイパス沿線の騒音に伴う防音壁の設置などをお願いした。阿知ケ谷地区は人口が増え、宅地の建設も行われている中、新たな住宅は、汚水を合併浄化槽によって浄化して水路に流しているが、その水路は農業用水となっている。すぐには対応できないと思うが、将来的には、雨水と農水と分離した水路が出来たら良いかという意見も出されたことを記憶している。

今日も皆さんが日ごろ感じていること、聞いてみたいことを気軽に明るく楽しく意見交換できたらいいと思っている。

② 市長からの市政報告

■はじめに

・この車座トークは、68 の全部の自治会をまわるということで、最初の 2 年間は「語る会」ということで呼んでいただいたところに伺っていたが、呼んでいただけない自治会もあり、全部限なくまわるという事は難しかった。今の島田の抱える課題、私の考え方を皆様に知っていただき、地域の皆様の行政に対する意見や、この地域の事情、特性を教えてください、目で耳で肌で確認して、それを市政に反映したいということでもまわっている。

・また、今年、来年の 2 年をかけて次の総合計画の策定の作業を行っているが、その参考にもさせていただく。

■公民館長の配置について

・現在、六合公民館に田原係長を配置しているが、六合公民館は、六合地域の拠点であると思っている。今までも公民館長はいたが、社会教育事業に特化した役割を持っていた。その部分については、従来どおり社会教育の主幹としてやっていただき、公民館長（係長）に田原を配置した。係長を配置した理由は、地域の課題をいち早く解決できるようにするためである。今年は、六合と初倉に配置している。地元の皆さんに受け入れていただける、かわいがっ

ていただける人材を選んで、どっぷり地域につかって、地域の皆様に育てていただけるよう配置している。

- ・是非、係長を窓口として使っていただきたい。係長は、本庁との連絡調整を行い、課題解決に向けて動くといったかたちになる。
- ・これからのまちづくりは地域主体というか、地域の皆様と行政が協力してやっついていかないと住みやすいまちにはならないと思っている。
- ・そのためにも、地域の拠点に地域と行政が連携するためのつなぎ役として係長を配置した。
- ・田原係長曰く、大変温かく迎え入れていただき、地域のつながりが強い地域が六合地域であると聞いている。
- ・六合地域は、住民同士の絆も強く、若い人も多く、資金力もある地域だと感じている。そういった意味では、恵まれた地域であるのではないかと感じている。
- ・また、六合公民館は、皆さんにとってはコミセン（コミュニティ・センター）のほうが馴染んでいると思う。来年度への課題にはなるが、名称も改めていくことを考えている。

■阿知ヶ谷・東光寺の人口、世帯について

・阿知ヶ谷・東光寺の7月31日現在の世帯数は695世帯、人口は1,944人で、高齢者人口は502人、高齢化率は25.8%となっている。市の平均が29.4%なので、比較的低い。15歳以下の人口は318人で人口に占める割合は16.4%となっている。市の平均は13.8%なので子どもの比率は高い。

■行政（政治）の役割が変わってきていることについて

- ・島田が今、一番課題だと思っていることは人口減少。
- ・東京一極集中を是正して、地方に人口を増やし、地域の活力を取り戻すため、島田市でも地方創生に取り組んでいる。昨年度は、「島田市まち・ひと・しごと地方創生総合戦略」を策定し、施策を講じなければ、2060年の市の人口が6万人くらいになってしまうものを、8万人にするための戦略。
- ・しかし、子どもの数は1975年から40年間すでに減り続けていたものを、いきなり子どもの数を増やそうとしても、すぐには増えていかない。
- ・若者の晩婚化、未婚化が進み、高齢化も2025年から30年にかけて高齢化率がピークを迎えるといわれている中で、2030年には人口が激減していくと予測されている。そういう時代が目の前に来ている中で、今までと同じやり方をしていたら、行政も地域ももたないと言うことが目に見えて明らか。このことにいち早く対応するために方向転換できたまちが住みやすく、選ばれたまちになると考えている。
- ・高齢化が進むことによって、医療、介護にお金がかかる。子育てや教育も充実させていかななくてはならない。一方、働く人の人口は減ることによって、税収は減り続け、全人口の半分くらいしか税金を納める人がいなくなると予測されている。
- ・土地も資産価値を求める時代から、どう活用していくかという時代となってくる。2030年には3軒に1軒が空き家になるという統計も出されている。
- ・大変に厳しい時代を迎えると感じている。そこに果敢に挑んで、様々な施策を講じているところである。

■島田市の高齢化の現状について

- ・今年の3月末現在の高齢化率は29.2%。約29,200人が65歳以上ということになる。うち、約17,500人は75歳以上となっている。この5年間で65歳以上の高齢者は3,188人増えた。一方、子どもの数はこの5年間で150人減っている。介護認定を受けている人は、3,681人、認定率は12.6%となっており、県内でも低い数値となっている。ご高齢でも元気な方が多い街といえる。
- ・要支援1、2の方も含めると、14.1%となっている。平成27年度から「新総合事業」といって、住むところ、医療、介護、介護予防、生活支援、こういったものをトータルで面倒を見ていこうとする取り組み。この取り組みによって、14.1%の認定率が12.6%に改善され、取り組みの効果が出ている。
- ・現在の島田市の介護保険料の基準額は4,150円で全国平均は5,514円で1,000円程度安くなっている。こうしたことから、長生きで元気な人が多いまちといえる。高齢になっても元気で過ごせる様々な事業を展開していると同時に、隣近所で助け合う互助の仕組みが必要で、このためには地域の力が必要。
- ・ひとり暮らしの高齢者の見守りや援助を地域でできるか、安心して地域で暮らせるか、そういったまちをつくっていききたい。
- ・例えば、居場所づくり事業は市内20か所、地域のふれあい事業は40か所、デイサービスの事業所は44か所、ホームヘルプサービス事業所は11か所、特別養護老人ホームは7か所、認知症対応型生活介護施設（グループホーム）は12か所となっている。高齢化に伴い、皆さんが安心して暮らせるまちになるよう力を入れている。
- ・できればという話にはなるが、自治会でも役員のなり手がなく、高齢で川ざらいに出ることができない、という自治会も出てきている。68自治会がもう少し大きな塊で連携できればいいと考えている。自治会を統合するというのではない。小学校区単位のまちづくり協議会のようなものでまちづくりを考えていくことも必要ではないか。地域で支えあう共助の仕組みをどうやってつくっていくのかということが大事。そういう中で、地域で見守りのネットワークなどもつくってもらえるとありがたい。
- ・地域を良くしていくためには、地域での話し合いで課題を出していただいて、行政と一緒に解決するにはどうしたらいいかを繋いでいける関係をつくっていききたい。

■国道1号藤枝バイパスについて

- ・野田インターチェンジより東の藤枝バイパスについては、4車線化の事業化が決定された。これに伴い、私としては、東光寺インターチェンジをフルインター化してもらいたいと思っている。その点については、地元の皆様のご意見を聞きたいと思っている。フルインター化することによって、市民病院へのアクセスができるようになり、特に災害時においては、短時間で病院に搬送できるなどのメリットが考えられる。このようなことをはじめとして、フルインター化することによって、地域の皆様のメリットを挙げてもらい、行政と一緒に同行してもらい国土交通省に訴えかけていただくと、要望活動にも効果があると考えている。

■六合地域の基盤整備等について

- ・六合駅南口について、トイレについては今年度建替えていく方針。また、ロータリーについても今後整備を行いたい。例えば、タクシーをロータリーの真ん中で待てるようにすることで、送迎の一般車両が今のタクシーの待つ位置で送迎できる。これに加えて、花壇の使い方なども検討して、複数年掛けて整備をしていきたい。
- ・市有地の駐車場については、今後、六合地域のまちづくりを考えていく中では重要な場所になると考えているため、売却するとか他の用途で使用するということは現段階では考えていない。
- ・島田市は若い人にも住みやすいまちとなるよう、平成 29 年度に待機児童ゼロを目指していく。現状では、3 歳以上の待機児童は出ていない。待機児童は、0、1、2 歳となっている。これは、児童 3 人に 1 人の保育士が必要で、保育士の確保等の課題もあってこのような現状にある。こうした中、六合地域にも新たな保育所を整備したいと考えており、六合公民館西側の、旧コミュニティセンターの跡地（現駐車場）を考えている。現状では、通学路に面していること、お墓が近接していることなどの課題があり地元の皆様と協議をさせていただいている。
- ・島田市の中で六合地域は人口が増えている。六合に来たら子どもを預けるところがあるという地域にしていきたい。
- ・東光寺谷川の龍江院橋の付け替えは終了したが、現在は拡幅工事を岸町のほうから進めている。
- ・東町御請線については、今年度が整備の最終年度となっている。10 億円程度、国の補助が足りないなどの課題もあったが、要望活動によって幾分国の補助も確保できる中で、平成 28 年度に完成させる。沿線には木屋島公園も整備する。この道路によって、六合地域の渋滞の緩和が期待されるし、六合地域がますます発展するために今年度中に終了させる。
- ・また、六合地域では放課後児童クラブの待機児童の解消が課題となっている。子どもの数が増えている中で、学校の空教室がない現状においては、ロクティにも地域の放課後児童クラブを開設している。場所もさることながら、指導員の確保も課題となっている。時給は 900 円であるが、是非、高齢者の方で、児童の面倒を見てくれる人がいたらお願いをしたい。（資格は要しない。）
- ・ロクティの多目的室の天井や非構造部材（電球など）の耐震化については、今年度中に対応して、利用者の安全を確保していく。

■「稼ぐ力」について

- ・ハローワークの署長、労金の支店長は転勤族だが、島田は暮らしやすいまちという感想をいただいている。
- ・島田市では、結婚しているご夫婦は平均 2 人以上子どもを産んでいる。
- ・問題は、未婚化や晩婚化が増えていること。男性の生涯未婚率は 15%を超えている。初婚年齢は女性が 29 歳、男性が 30 歳となっている。女性が子どもを産める年齢が 40 歳くらいとしたら、なかなか 3 人、4 人と産めない時代になってきている。
- ・こうした中で、島田に新たな産業構造を生み、地域を活性化させ、雇用を生み出す政策もやっていく必要がある。
- ・国道 473 号と新東名が交差するところに、にぎわい交流拠点をつくる計画。これは、島田市が中心となって、JA 大井川、NEXCO 中日本、大井川鐵道の 4

者が連携してにぎわい交流拠点をつくらうということだが、島田市は新東名の下を、国から占用許可をいただいて、1,000台弱くらいの規模で、富士山静岡空港のような無料駐車場をつくりたいと思っている。そこに車を置いて、奥大井あるいは島田市内に人が回遊する流れをつくりたい。JAのほうは、農産品のマルシェ、魚のマルシェ、レストラン、物品販売、カフェ等をつくりたい。大井川鐵道には、できればそこに新駅をつくって、SLを見ながらお茶を飲むような場所をつくりたい。そこからSLに乗れるような基地にしていきたい。

- ・新東名高速道路島田金谷 IC 周辺の 84ha を内陸フロンティアとして指定した。牛尾山も含め、全てを工業団地にしていくことは難しいが、今、農振除外と受益地の除外に懸命であるが、目途が立ってきており、進出したい企業とのマッチングの話し合いも行ってきている。また、マーケットサウンディング（パブリック・プライベート・パートナーシップ＝PPP 事業を官民にて円滑に行う目的で、当該事業の実施前に公共が対象事業について民間からの意見聴取・意見交換を行うこと。）とあって、ここに進出したい企業がどのくらいあるのかを調査をかけて、要望のある企業の現地説明会を行ったり、税制優遇措置、補助金等の制度の説明などの売り込みに力を入れている。

- ・この地域は、大井川の伏流水による良質な水が豊富である。新東名の沿線ではこの地域ほど可能性を秘めた地域はない。新たな産業構造を生み出せる可能性がある。

- ・また、一定規模の農地を集約して、若い人たちが農業できる仕組みとして、西原で 4.5ha の土地を活用して始めているところ。

- ・金谷中学校跡地に、5.5ha の土地がある。空港から近く、お茶の郷からも歩いて行ける。ここについて、民間の力を活用して、大規模開発ができないか検討しており、出てきたい企業を拾い集めているところ。

■浜岡原子力発電所に係る安全協定の締結について

- ・県庁で、中電と県とUPZ 圏内の 5 市 2 町（島田市、焼津市、藤枝市、袋井市、磐田市、吉田町、森町）が、地元 4 市（御前崎市、牧之原市、掛川市、菊川市）を除いた 7 市町で 7 月 8 日に安全協定を結んだ。この協定締結には 2 年 5 ヶ月かかった。その理由として、地元 4 市に準じる安全協定を結びたいということで、事前了解の規定に関する調整（それぞれの首長の思い）が難しかった。今回、ようやく安全協定を締結できた。

- ・環境放射能の測定を、地元 4 市は行うことが決められているが、5 市 2 町も環境放射能の状況を確認するために測定を実施すると定めた。また、地元の 4 市について、県は必要と認める場合には浜岡原発に立ち入り調査を行うことができることとなっている。5 市 2 町はその立入調査に同行できるということになった。立入調査の結果、必要であると認める時には、適切な措置を電力会社に求めることができる。地元 4 市の措置の要求があったときには、中部電力が 5 市 2 町に正しい情報を流すということになっている。地元 4 市の安全協定は原発ができた時のもので、3.11 のような事故は想定していない安全協定。しかしながら、その協定を結びなおすことはなかなか困難。この安全協定の中には解釈書という措置要領に基づき、事前通知がされて、事前協議を通じて実質的に事前了解が担保されることとなっている。この事前了解は再稼働の事前了解ではなく、部品の変更などを想定しているもの。実質的に事前了解を担保できる形において 4 市と同様に 5 市 2 町もそれに準じたものとなっている。

- ・激しい議論の末にできた安全協定は評価したい。県とも連携をして市民の安心・安全を確保していきたい。

■蓬萊橋周辺整備等について

- ・蓬萊橋は年間 10 万人余のお客様がみえる。5 月の連休は、3 日間で 12,000 人程度がお見えになる。
- ・蓬萊橋の周辺は河川敷で国土交通省の所管であり、なかなか物を建てることができなかった。
- ・規制緩和や、ずっとお願いしてきたこともあって、物を建てるでも良いという許可をいただいた。ミズベリングという協議会をつくり、答申をいただいた上で、来年の新茶の時期に間に合うように、お休み処と、物品販売する場所を造りたいと思っている。
- ・同時に、幕臣 800 人を率いて牧之原台地の開拓に入った中條景昭を派遣した洋装の勝海舟の銅像を、牧之原台地を望むところに建てたい。勝海舟の幕臣 800 人を励ます胸の熱くなるような手紙が、去年、千葉で発見されるなど、島田と勝海舟のつながりが、子ども達の誇りになるよう教育もしていきたいし、観光の名所にもしていきたい。
- ・最初は、左岸側の番小屋の近くから来年の春を目処に整備を始めていきたい。
- ・同時に地域の祭りなど（ここで言うなら「ほたるの里コンサート」）などを市民遺産として継承をしていきたい。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	<p>■市民病院の建替えについて</p> <p>市民病院の建替えをすると駐車場がなくなってしまう。</p> <p>旧清掃センターから山をつぶして、大津へ抜ける道をつくって野田から乗るようにする。山の平らな部分ができたら市民病院の駐車場を確保する案はどうか。</p> <p>フルインター化は加速路線がないので無理だと思う。</p>	<p>●職員駐車場は中央公園の方になっている。また、バイパスの下、民間土地を借り上げて駐車場にすることで駐車場の確保に向けて協議している。</p> <p>あくまで構想案として、事前に立体駐車場を作ってみればという考えもあるが、高齢者の方には立体駐車場は使いにくいというデメリットもある。</p> <p>旧清掃センターから山を越して野田から乗る御提案は、山を削ることは大事業になる。ご意見は病院には伝えておく。</p> <p>・造る場所は、今の東側の駐車場の場所で、道を付け替えたりする。あの土地だと三角形の建物になってしまうのではないかと思われるかもしれないが、今のところはT字型のような形になる予定としているが、使いやすい形にしていきたい。</p> <p>・基本計画までに決まったことは、病床数を 445 床程度とすること。</p> <p>・床面積は 35,000 ㎡、7～8 階建て、屋上にはヘリポートを設置して、ドクターヘリの患者に対する医療行為を効率的に行えるようにしていきたい。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・事業費は247億円を見込んでいる。今年度には、もう少し詳細について皆さんにご報告できると思う。 ・地盤について心配をいただいているが、ボーリング調査もしているし、岩盤までの距離はあるものの、その間の土質は粘土質である。液状化は砂と水が混ざって起こる。県の第四次被害想定でも液状化しにくい場所になっている。今の最新技術で岩盤まで杭を打てば建設には何も問題がないと思う。
2	<p>■市民病院の医師の確保について</p>	<p>●市民病院は昔から京大系といわれてきた。</p> <p>京都大学からは面倒を見れないと言われていた。昔の医局制度があつて、教授が、この病院に行けといていた時代には、島田にも来ていたが、今は、研修医が自分の研修する場所を選択するため、京都の学生さんたちは、関西圏から出たくない、行っても三重までだと言っている。このため、現在は、全国からお医者さんに来てもらっている。これから島田に医師を派遣してもらう有力なところとして、浜松医科大学をしっかりと抑えていきたいと思っている。浜松医科大学は医師の定員増を含めて、県内の学生を多く採っているので、今年あたりから医師が増えていく。私も定期的に浜松医科大学の学長を訪問して、島田に医師を派遣して頂きたいとお願いをしている。</p> <p>医師の派遣の依頼をすると、新幹線が停車するか、百貨店はあるか、中高一貫校があるかと問われる。医師は、子どもの教育環境や生活環境の充実したものを求めているので、そういった点でも受け入れ態勢を整備している。また医療機器の整備にも努めている。</p>
3	<p>■東光寺谷川の浚渫について</p> <p>東光寺谷川は周辺の山が赤土によって崩れやすく土砂が川に流入する。浚渫をお願いしたい。</p> <p>できるところはほぼ工事が終わっているが、今後は、工専用道路をつくって砂防ダムを作してほしい。</p>	<p>●東光寺谷川は県の管理の河川である。毎回お願いしているが県の予算もなかなか付かない状況である。</p> <p>一方、国の管理の大井川は整備率95%の護岸整備である。そこに注ぐ支流の川が内水氾濫とあって、おととしも「あわや」というところまでの状況になったことを鮮明に覚えている。</p>

		<p>国も県も土木費の縮減を図っている。国は平成12年頃には、全国の自治体に道路をつくる補助金だけで15兆円以上のお金を出してくれていた。これが、26年度も27年度も当初予算に計上されている予算は5兆1千万円であり、3分の1となっている。県も、35の市町に道路をつくるための補助金として、同じ頃165億円を超えるお金を出してくれていた。しかし、去年も一昨年も当初予算のベースで46億円ほどと、こちらも3分の1となっている。</p> <p>また、島田市の道路延長は1,180km、橋は1,154橋で、5年に一度の点検が法律で決められている。すでに、新しいものを造るよりは維持（長寿命化）していくことがメインとなっている。</p> <p>ご要望は県に伝えていく。</p>
4	<p>■島田大祭について</p> <p>今年が島田大祭の年だが、日本三奇祭といわれているが、あとの2つの祭りが何であるかを皆さん知らない。（諸説はあるが）この2つの祭りとの連携した取り組みはできないか。島田大祭も市外、県外となると認知度は低い。</p>	<p>●2つの祭りとの連携のアイデアは非常にいいアイデアである。中には、鬻まつりの鬻の飴で大きな行事をやっているところもある。鬻サミットができないかという話もでている。</p> <p>三奇祭の連携は調べて、やれるかどうかを検討してみたいと思う。</p> <p>島田大祭が調べればいかにすごい祭りかと言うことを市民みんなに知ってもらうことが大事。島田市も補助金を出しているが、それでも厳しいと言う中で、島田全体の祭りにできないかと言う話もある。</p> <p>祭りの価値については、島田市民皆さんが気が付くべきだし、わが街の誇りである祭りであることは確かである。</p>
5	<p>■ゆるキャラについて</p> <p>島田にはゆるキャラがいくつもある。どうして奴さんがいないのかと思う。奴さんを作って、島田ファミリーでPRしたらどうか。</p>	<p>●家康の側室は金谷から出ているので、家康君とおしまちゃんとお見合いさせたらという案もあった。</p> <p>ゆるキャラはそれぞれ、商工会議所などの母体があるので、対応が難しいのが現実である。おしまちゃんとチャリムくんには、特別住民票を交付していることで、一応島田の顔となっている。</p>
6	<p>■祭りの法被について</p> <p>法被の裏に、京都の絵師に書いてもらったものや、刺繍がしてあって、</p>	<p>●お祭りの前に盛り上げるためにそういった展示会をやるというアイデアはすばらしい。博物館に検討させる。</p>

	<p>価値のあるものもある。それを借りて、皆さんに見せることも必要なのではないか。博物館などで。</p>	<p>帯の中には2千万円するものもある。呉服屋も多いので、全国からいい帯を預かって、博物館で展覧会を開催することを考えたこともある。</p>
7-1	<p>■交通安全施設について</p> <p>交通安全施設として、道路の停止線などが薄くなったり見にくくなっている箇所がある。改善をお願いしているが、そのお願いに対する回答なり対応が遅い。スピード感を持っていただくことと、人口増、交通量の増大によって規制線が薄くなったりもしている。</p> <p>また、年4、5回の街頭広報も結構だが、前後2週間くらいかけて、少人数で行ったほうが良い。市から通知される7時30分の街頭広報では、子どもは登校してしまっただ後で実効性に欠けるのではないか。</p> <p>時代が変わってきているので、時代に合った方法をお願いしたい。</p>	<p>●街頭広報は年に5回くらい実施している。時間は地区の実情に応じて決めてもらうことはできる。</p> <p>通勤時間帯に合わせての啓発の意味もある。</p> <p>停止線等は生活安心課から警察をお願いしている。</p> <p>警察も予算がなくて、新しい信号機の新設要望についても、たくさんいただいているが、去年は2箇所しか設置されなかった状況である。</p> <p>警察の所管のことは行政に帰ってこない。事後報告がないことが状況である。定期的に警察もやってくれていると思う。</p>
7-2	<p>■優劣をつけて、少なくとも子どもの通学路を一番として、要望をお願いしたい。</p>	<p>●私からも強く要望していく。</p> <p>蕨が標識に絡まって見えないので取ってくれと言われた。ちょっと地元でやってくれればと思うが…。</p> <p>また点字ブロックに蕨が絡まって危険と言う要望もちょっと切って払ってくれればという思いがある。そういう街になってくれればと思っている。</p>
7-3	<p>■停止線が薄くなっているところを自主的に塗ったこともあるが、時代の流れの中で、どうして自分たちがやらなければならないのかという意見もある。我々としても勝手に停止線を塗ることがしにくい中では、行政をお願いするしかないが、3、4年もそのままであると言うことはもしもと言う時には遅いと感じる。</p>	<p>●市民の皆様にご協力いただけることには、まちづくり支援交付金の制度があつて、これまでは単年度で10万円、もしくは30万円だったものを、6年間継続してみようという形に変えてきている。</p> <p>6年間で180万円までみることが出来る。プレゼンテーションは行うが、今年度第2回目の募集もしていく予定なので、活用いただきたい。</p> <p>コミバスの本数が少なく、地域内で移動できないという課題に対して、市がワンボックスの車と保険とガソリンを負担し、地元では運転手をやっていただける人をカバーしてもらい、ローテーションを組んで走ってもらうことで、高齢者の買い物支援などに役立つ。</p> <p>湯日小学校という小さな小学校は複式学級になっているが、昔は放課後児童クラブなどはいらなかった。しかし今は放課後児童クラブに通うお子</p>

		<p>さんがいる。一番近い初倉南小学校まで5km。湯日小学校の全校児童数は30人くらいの学校なので、そこに放課後児童クラブは造れないという中で、どうやって南小まで子供たちを毎日運んだらいいのかということで、行政は、一時はタクシーを使うことも考えた。地元で相談したところ、地元の方々はローテーションを組んで、迎えに行くのは親だから、送っていくことは一日一回だけだから自分たちで何とかすると言って、自分の車で子供たちを送ってくださっている。それに対して行政は、ガソリン代と車代と、お礼をお支払いしている。ここは放課後児童クラブも造れないが、働く親が増えて放課後児童クラブも欲しいという中で、地域の西部ふれあいセンターを使って、地元の人たちが自分たちで放課後に子供たちを見る。毎日ではなくて週3回くらい見ている。そんな活動もしている。</p> <p>また、一人暮らしの高齢者にお弁当の配送をするなど、地域の中で活動をしていくことに対する支援は行政として対応していきたい。地域の課題解決に地域と行政が連携してやっていきたい。</p>
8-1	<p>■高齢者のお弁当の配送について</p> <p>お弁当の配達補助金はどのような補助金か。</p> <p>自主運行の担当課は。</p>	<p>●ひとり暮らしの高齢者にお弁当を配送するための補助金として、地域が実情に応じた取り組みについては支援をしていきたい。</p> <p>抜里の駅でやっているものには補助金を出していない。</p> <p>市内全域の方はお弁当屋さん頼んでやっている。</p> <p>川根でもやっているがその取り組みについても補助金を出している。</p> <p>自主運行については、まずは協働推進課に聞いていただきたい。</p>
9	<p>■市の財政状況について</p> <p>県では県内市町の財政状況を公開しているが、島田市の財政状況は決して良くない。(後ろから5番目くらい。) 経常収支に占める人件費の割合も悪いほうから4番目くらいである。島田市の課題としてどこにあってこれから、どういう方向にいかしているのか具体的に方策を聞きたい。</p>	<p>●市長になった時の約束は4つあったが、そのうちの一つに「財政の健全化」がある。市のホームページに借金時計を掲載しているのもその方策の一つ。税収の増が見込めない中では、選択と集中を重ねながら取り組んでいく必要がある。</p> <p>経常収支比率は91.6%である。経常収支比率は、家庭で例えると、車のローン、給食費、保険料、出て行くお金を全部積み足したら、全体の9割が出て行く先が決まっているお金ということ。遊びに行ったり、外食する</p>

お金が1割しかないということ。いっぺんには良くはないが改善に努めているところ。

一方で、公債費比率（一般会計に占める公債費の比率）や将来負担比率（将来の人たちが負担していかなければいけない割合）は藤枝よりもいい数値となっている。

やらなければいけないことはたくさんあるが、順番に、優先順位を付けて健全に財政運営を行っていきたい。

一般会計に占める人件費の割合は2割。毎年2割程度となっている。

扶助費（医療、介護、福祉）は3割であったものが、今年度は33%である。わずか3%であるが10億円増えている。

平成27年度の介護保険で市が負担した金額が72億円。（国、県の負担も含む。）

市の財政状況は決していい数値だとは思っていない。

将来に残す負担は少ない。次世代の若者が島田に住んで、自分たちがやりたいこと、選んだことをやれる財政でなくてはならない。そうした意味で、健全化に目途を付けていくことで方向転換をしてきたし、実際に30億円程度の借金を減らしてきた。稼ぐまちとして投資したものが、しっかり帰ってくるような施策に取り組んでいきたい。

※ 回答は全て市長から回答した。

④当日の様子

